

【議事要旨】第2回北陸圏・中部圏の国土形成を考える会 ～新時代の日本海側と太平洋側の広域連携に向けて～

日時：令和7年7月9日（水）10:00～12:00

場所：富山県民会館 704 会議室（オンライン併用）

～主な意見（要約）～

（1）防災について

- ・広域支援のためには、高速道路や国道の4車線化など道路ネットワークの強化が必要である。特に県境またぐ幹線を4車線化で確保していくことが重要である。
- ・災害に備えた物流インフラの多重化・耐震化を推進すべきである。
- ・内陸活断層による地震も想定し、北陸圏と中部圏で相互補完体制を構築することが重要である。
- ・地方部ではインフラ維持管理の課題もあり、小規模・分散型インフラ整備を模索することが必要である。
- ・災害時の被災者支援体制（人材派遣）、二次避難の円滑化、外国人観光客向け災害情報提供体制の整備が必要である。
- ・エネルギー供給の強靱化と送配電網の整備が不可欠である。

（2）産業について

- ・トラック運転手の減少を背景に、鉄道網を利用した物流の活性化が図られるとよい。
- ・エネルギーの安定供給体制が産業基盤としても重要である。
- ・名古屋港との連携による北陸圏への企業誘致や、日本海側への産業・物流拠点のシフトを推進すべきである。
- ・繊維産業など連携が行われているが、農業分野など幅広い産業での連携を拡大すべきである。

（3）観光について

- ・被災地観光の復興のため、中部圏と連携した広域周遊ルート形成を推進すべきである。
- ・北陸新幹線の延伸による外国人観光客の増加を受け、インバウンドのニーズなどから昇龍道プロジェクトの戦略を見直し、観光PRを強化すべきである。
- ・新幹線駅からの二次交通としてレンタカーを利用する方も多いため、冬季における道路交通に関する対策が必要である。
- ・インバウンド戦略として、地域密着型の「没入体験」や民泊等の面的連携による滞在促進のほか、超富裕層だけでなく幅広い観光客層を対象とした戦略を検討すべきである。

（4）その他

- ・北陸新幹線の延伸により北陸圏と首都圏の繋がりが強くなり、今後の北陸圏・中部圏の連携強化として、敦賀・米原間の北陸新幹線延伸検討等も含めミッシングリンクの解消は重要である。
- ・リニア中央新幹線の開業による拠点性の強化を踏まえ、鉄道網をはじめ両圏域を今後どのように繋ぐか、空路、道路、航路も含め繋ぐことが重要である。
- ・繋がるのは必要条件であるが、繋がっただけでは十分ではなく快適性や安全面も重要である。
- ・策定した広域地方計画の自治体への周知のほか、市民への広報・情報発信を通じた圏域間の連携強化が重要である。